

令和5年度第2回徳島県周産期医療協議会 議事録

1 日 時

令和6年1月30日（火）午後7時30分から午後9時まで

2 場 所

徳島県立中央病院講堂及びオンライン会議（Zoom）

3 出席者

（1）委員（15名）【五十音順・敬称略】

苛原 稔（会長）、漆原 真樹、加地 剛、岸 麻紀、岸 揚子、桐本 雅史
佐藤 純子、田山 正伸、中川 竜二、春名 充、福井 理仁、前川 正彦
宮崎 達志、横山 敦子、渡辺 浩良

（2）オブザーバー

岩佐 武、森内 洋美

（3）事務局等

県保健福祉部（健康づくり課，医療政策課・広域医療室），消防保安課，
病院局，こどもまんなか政策課，各保健所等

4 会議次第

（1）開会

（2）議事

議事1 第8次徳島県保健医療計画の最終案について

- （1）周産期医療体制関係
- （2）母子保健対策関係

議事2 その他

- （1）母子保健専門部会からの報告
「令和4年乳児死亡症例5例の検証と対策」
- （2）「2024年度のRSウイルスに対するシナジス投与スケジュール」について
- （3）「地域職域関係者研修会（女性のメンタルヘルス研修）」について

（3）閉会

5 議事の概要

（1）第8次徳島県保健医療計画の最終案について

（健康づくり課）周産期医療体制関係【資料1】について説明

（こどもまんなか政策課）母子保健対策関係【資料2】について説明

（苛原会長）それでは、ただいま事務局、あるいはこどもまんなか政策課からご説明いただいた内容につきまして、ご意見があるでしょうか？内容については非常にブラッシュアップをさせていただいておりますし、簡潔になっていると思いますので、先生方がよけれ

ば、これはお任せしたいなと思うんですが。

(森内オブザーバー) 資料1⑤なんですが、の産科区域の特定()という形になっていますが、産科区域特定以降の院内助産・助産師外来を()からはずしていただいた方がよろしくないかと。

(事務局) ご意見ありがとうございます。この書き方は、国の方の指針の書き方をそのままなぞったものですので、そのままでもいいかと思っております。

(田山委員) 医療計画の中で、今回能登の地震があったとき、先ほど鎌村先生から言われたんですが、リエゾンというところで、この文言の中に、周産期医療体制で香川県であるとか、近畿との連携という言葉があるんですが、災害時の周産期医療体制の中には、他県との連携とかがないので、いわゆる救急医療体制のそこにははっきりした文言があるので、改めてこの災害のところに少し文言を加えた方がいいのではないかなど、この1月のことがあったので思ったんですが、いかがでしょうか？

(苛原会長) 10ページの四のところでしょうか？災害時における周産期医療体制の整備のところでしょうか？

(田山委員) 周産期医療体制図がありましたけど、西部は香川県との連携、それから近畿との連携というのが、周産期医療体制図の中にはあるんですが、それから救急医療体制の中にもちゃんとそうしたことは明記されているんですが、やはり今回のことも踏まえて、災害時のところで改めてそこの記載をやった方がいいように思います。どうでしょうか？他県との連携というところは多分、近畿とか明記されてたと思うんですが、救急医療体制のところの文言があったと思うんです。そこのところ、災害時というところにも改めて、他県との連携ということを書いておいた方が、周産期医療体制に基づいて、何かこう文言を追加した方が災害時ということで、いかがでしょうか？

(事務局) 平時の救急のところでは、こういう体制、近畿ブロックの、そして関西広域連合内であってところが、具体的に周産期医療機関にもあるんですけども、例えば関西広域連合なんですけど、特にドクターヘリの方については具体的にしているんですけども、この災害時の医療計画のところで、地域的なところを活動は難しいので法律的なとか、そういう表現で少し書き換えさせていただくような形でよろしいでしょうか？

(田山委員) 周産期医療体制の全体の像がありますよね。そこのところの連携というところであるので細かい記載は、広域連携とか必要ないかと思うんですが、そういう連携を周産期医療体制に基づいてというところで何か追記していただければ。先ほど言われたような文言でもいいと思いますが、よろしくお願いします。

(事務局) 苛原会長さんにも相談させていただくということで。

(2) その他について

(加地委員)「令和4年乳児死亡症例5例の検証と対策」について説明

(苛原会長) いつも詳細な検討していただきまして、ありがとうございます。何かご質問ございますでしょうか？今回は残念ながら添い寝したのが、原因で窒息死したというのが1例あったということですけど。よろしいでしょうか？さらに対策をしていくということをご提案いただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(事務局) 今日は特に公開ではあるんですけども、関係者の方だけということで報告を急遽させていただきますが、昨晚、徳島県死因究明等推進協議会年1回の開催しまして。今、大学の西村教授が、中心になっていただいているんですけども、厚生労働省にもウェブで参加いただき、今回のテーマが子供の死亡についてと災害死因と2つテーマがありまして、特に子供の方について、西村先生からその虐待のことであったり、さらにSIDS、そういった全般的なところを話していただいた上で、今日ご出席いただいている、先生方にも出席いただいて、ご意見いただきました。県警本部も参加、捜査一課長も参加してくれておりましたので、非常に前向きなご意見をいただき、少し前進した議論できたかなと思っております。加地先生、昨日のことで感想とかの印象とかございましたら。

(加地委員) 昨日をそういった会に呼んでいただきまして、我々のその周産期医療協議会の部会での限界といひましようか、医療的なことは我々で対応、改善策が打ち出せるんですけど、やっぱり警察関連。今回の窒息はある程度わかったんですけども、警察が情報を出してくれないと結局原因がわからないと対策ができないってということで、どうしてもそこで止まっていたものを昨日、警察の方と西村先生とお話して、いい方向で検討していただけることになって。今後はいい方向でやっていければいいかなと思ひました。

(事務局) それで、会長、この会でお話した上でになるんですけども。次年度のこの母子保健は、特にこの乳児死亡の検討のところ、西村教授にもご参加いただき、そしてそういった事件・事故を、あるいはそういったものでない場合も含めて、警察が鑑定するところについては、少し情報をお願ひできるのではないかなということで、何かの形で出席をお願ひできればと考えております。

(苛原会長) お話よくわかりました。それは症例があった時に？それとも毎回？

(加地委員) そうですね。症例があった時になると思ひんです。解剖とか警察が絡んだっていう人が。

(苛原会長) わかりました。前からどちらかという希望してた内容ですので、できればそういう方向で考えてよろしいでしょうか？じゃあそのようにさせていただければと思ひます。他にいかがでしょうか？それからもう一つHTLV-1の研修会、3月7日の7時からの徳島県医師会の方で、ハイブリッドで開催する予定で、たまたまなんですけど、妊娠中のウ

イルス疾患とワクチン等について、HPVのウイルスのことで有名な村中璃子さんがドイツから講演してくれることになってますので、よかったらご参加をいただけたらと思います。それから医会の方から、HTLV-1の最近の状況について資料を送られてきてますので、それをご紹介したいと思っています。

(中川委員)「2024年度のRSウイルスに対するシナジス投与スケジュール」について説明

(苛原会長) 例年のよう、投与時期を県下一斉にしましょうということで説明いただいて、24年度は6月1日からしてはどうかで、それまでに流行が早まった場合には前倒しをしましょう。それから、もし5月に始まったり、いろいろした場合には投期を変えてやりましょうという、この4点がポイントだということですが、いかがでしょうか。特に小児科の先生いかがでしょうか？

(田山委員) 中川先生、いつもありがとうございます。小児科医会、それから病院の小児科との連携をとって、きちっとした指針を作っていただいて、毎年助かっております。で、数年前の近いところで大流行あった時には、各病院で非常に困っておりましたり、入院ができない症例もあつたりしたんですけど、それも意見交換をしてベッドコントロールということも考えておりますし、今、コロナもインフルエンザも去年からずっと流行してるんですが、いまだに小児のインフルエンザもコロナも流行してるので、こういう感染症に対しての備えっていうのは非常に大事なことで、我々小児科医は、生まれてくる子どもたちがやはり免疫持っていない子供たちが多く、こういう風に体制を作っていきますので、皆さんご理解のほど、よろしく願いいたします。

(渡辺委員) シナジスを打たれている方は確実に予防効果があるんだと思うんですけど、入院で去年も5月、6月、7月にそういう子があつたんですけども、シナジスを打たれている患者さんの入院はほぼなかったもので、適切な時期に始めていただけるとすごくありがたいなと思います。やがて、その母体に打つワクチンが始まったりとか、シナジスを外れた年齢の子供に予防薬が承認されるとかっていうことになる、様子が変わってくるんだと思うんですけど、今後ともよろしく願いいたします。

(苛原会長) ありがとうございます。よろしいでしょうか？それでは、中川先生のご提案のように決めさせていただきたいと思います。つきましてはこの2番目の5月に前倒しになる場合には、もう小児科医会の田山先生にお任せしてですね。決めていただいたらいいのかなと思うんですが、どうでしょうか。我々わざわざここで検討する必要はなく、小児科医会と中川先生のところでお話を決めていただいて、前倒しをしていただいて、また新たな時点でご報告いただければと思うんですけど、先生、それでよろしいでしょうか？

(漆原委員) RSウイルスの対応に関しましては、今、苛原先生がおっしゃられたように、中川先生中心に対応していきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(苛原会長) 8回打たなければいけないの？

(中川委員) 8回ってというのが、標準的なスケジュールで、たまにこう二峰性の流行とかあったりする場合もないこともないですね。スタートした時点で、例えば2ヶ月だったお子さんも10か月になって重症化の年齢から、外れていきますので、8回が順という形で。

(苛原委員) 母体へ打つのは、まだ一定の見解が出てないよう聞いておりますので、今後の課題だと。

(佐藤委員)「地域職域関係者研修会(女性のメンタルヘルス研修)」についての説明

(苛原会長) プレコンセプションケアの推進が母子保健の中に入っておりますので、そういう関連からも必要な状況だと思いますが、よろしいでしょうか？

全体を通して

(事務局) 時間がない中ですみません。少し教えていただきたいことがございますので、せっかく周産期の協議会ですので、この周産期医療協議会において、近年のコロナの拡大時に、特に分娩時の対応というところで、この会議でいろいろ検討もいただき、いろいろ調整もいただいて、これまでやってきたとこなんですけども、また皆様方、ご存知のようにコロナが非常に拡大してきておりまして、先週の定点でも20を越え、20ってというのは、全国的に見ても高い方であり、市中感染及び施設内感染の方も増えておりまして、入院患者さんについても、G-MISの方に入力があるだけでも100人を今超えているというところで、中には重症の方も見ていただいているところです。そういった中で時々お問い合わせもあったんですけども、今日ご出席の中では市民病院と県中、大学の先生に出席していただいたんですけども、コロナに罹患された妊産婦、特にこちらの方で何かお困りのこととか、ご意見とか、もしございましたらお願いしたいんですけど。

(苛原会長) それでは、まずはじゃあ大学の方から。加地先生何かございますでしょうか？

(加地委員) 患者自体あまりいない。ラインとかで連絡してやったりとか別に受入れってというのはあります。

(前川委員) 中央病院は院内での発生はないんですが、開業医さんで陣発がきたときに、問い合わせの電話がありまして、多分ちょうどその時、病棟でもクラスターが発生してまして、受ける状況じゃなかったんで、その症例は大学の方で受けていただいたような経緯があります。

(岸委員) 市民病院では、コロナ陽性妊婦さんの分娩は、コロナ病棟に妊婦さんを入院させて帝王切開に切り替えて、全部オペが終わった後に、赤ちゃんはお母さんが陽性扱い

っぱいは、一旦、NICU、GCUを今の段階で預かって、問題なければそこに帰す。

(事務局) ありがとうございます。また情報共有とか、非常に感染拡大が進んでおりますので、できればと思っております。また一方的に情報とか送らせていただいておりますけれども、お気づきの点とかありました。また、直接ご連絡いただけたらと思います。もう一つなんですけれども、最初の挨拶に戻りまして能登半島地震の方で、そういう途中で災害のところにさせていただいたんですけれども。今回、停電とか断水、特に断水の方で、ライフラインが分断した時に必要な特定分野としてのこの周産期、それと、あと我々としては透析部門、あと精神科、在宅酸素とか、その在宅の人工呼吸器ってところの個別のヒアリングとか、必要に応じてウェブ協議などもお願いしたいということで、いくつかのところは送らせていただいております。またこの辺をお気づきのことございましたら、ご連絡とかメールでお伺いいただけたらと思います。特に石川県の対応状況とか、先生方が個別にご存知のこととかあれば。マスコミにも少し出てたと思うんですが、能登北部の方の妊婦さんでもう出産間近だったのでドクターヘリで搬送されて出産された方が無事出産できてよかったという話もあったと思うんです。ドクターヘリについても、実は1月1日夕方、発災後、関西広域連合内っていうか徳島県が一応担当なんですけど、ドクターヘリの調整自体は大阪大学病院となっているので、大阪大学病院の救急のドクヘリの先生と私の方で、連絡取り合って、基本的には広域要請があれば、どことどこどこにお願いするという調整、それと中四国ブロックは川崎医大が担当だったので、ちょうど川崎医大の教授とも連絡を取り合って、中四国、関西が、どういう風にしながら支援するかっていう、最終的にはドクターヘリの要請は富山と辺りの5機が一応今も当番やってくれてます。徳島大学病院では搬送してくるかっていうところがありますので、今、訓練等でしていただいているような、ネットワークが、ぜひそういうことで役立つような形でお願いできればなどで、我々としてはそういう搬送手段が活用できたと思いますので、よろしくお願いたします。

(苛原会長) 前川先生、追加ありますか？災害対策。

(前川委員) 昨年、政府訓練の感想で、反省会でも入れたんですが、当初、その多分地震が起こった時に、徳島県でどこまで受け入れるのかということで、県外搬送をするのも、一つの訓練の対応ですということを、DMAT事務局の千島さんに言われてたんですが、当日はなかなかそういう症例を作ることができなくてっていうことと、その妊婦さんにそういう症例が出てきた時に、その県庁内のそのドクヘリのところに要請をしても、なかなかそれが回らないということが、問題になって、すごくいい訓練だと思うんですが、その間隔が空いてますので、実際発災してああいう状況だと、周産期医療機関、なかなかうまく回っていかないのかなというのが実感しましたので、開催頻度を上げていただければと思います。

(事務局) ありがとうございます。政府訓練の方は、各地に5年に1回ぐらい回ってるんですけども、四国のDMATは4年に1回。様々な訓練、いろいろありますので、そういつ

たものが、連携しながらできたら。やはり訓練で課題見つけることができた？

(前川委員) 私は徳島大学で、実際に県庁に加地先生が行かれたので、もっと感想があると思うんですけど。

(加地委員) やっぱり実際、訓練してみると、非常にためになるというか、勉強ですね。全然何もできないっていうか。うまくいかないことが分かってたんで、県内だけでもいいんじゃないかなと思ったりしますけども、訓練を実際にやることで、非常にやっぱり厳しいっていうか勉強に。ちなみにですけど、今回の地震でラインって使えたんですか？我々の連絡手段としてはラインを想定してますけど、ラインも残る感じですか？

(事務局) 実はアイサットっていうものがありまして、それでauとドコモとソフトバンクの通信エリアを表示されてました。割と残ってたのはたまたまかも分からないですが、能登半島、ソフトバンクが割と生き残ってたっていうのがあるんです。今もう大分回復してきてるんですけども、通信状況がやっぱり山間地域はダメなんですけど、一番最初の時に、この皆様ご存じのとおり基地局の電源はいけてる間は割と通じてる確率高いということなんで、そこが停電なんで、電源がバッテリーが終わると通じなくなったということだったと思って。訓練で何かそういうふうなことを検証できたら。

(中川委員) リエゾンメールリングリストで、急性期いろいろわかってきてたんですけど、PEACE、産婦人科のそのシステムにも入力をしろっていうのが現場の先生からしたら、現場の対応だけで大変なのに、PEACEに送ってちょこちょこちょこ入れてっていうのが煩雑すぎて、ブチ切れたメールが全国にあったと。いい加減にしろっていうのは、これは都会型の対策であって、石川県搬送されるところが二か所ぐらいしかないらしいんです。これ非常に徳島県とよく似てて、それで現地の病院とは、はっきりやりとりさえできればいいのに、ピースの入力なんか誰もしないし、時間かかるだけで、いい加減にしろみたいな。それで、産婦人科の学会の方からすいませんっていうのが来てた。秋に見直しがあつて、もっと簡略化するみたいになった。非常に徳島県と似てたなということ。現場はもうそれどころじゃない。それプラス、やれメールリングリストから、現況報告しろってものすごく来るらしいです。いろんなところから、そういうのも整理する必要があるって情報提供です。

(苛原会長) あれは熊本の地震でうまくいったんで、すごく自信を持ってたんですよ。学会としてはですけど。やっぱり発災した場所とか様々な要因があつて、すべてが同じじゃないってことは、東北、熊本とそれから今回のこととその前の阪神、様々な違いがあるのがよく分かってきたなということが分かりました。それから、余談になるかもしれませんが、先日、1月2日に羽田で日航機が事故を起こした時、やっぱり訓練を日頃からやっていたことが、たまたま運が良かったのかもわかりませんが、日航機乗っておられる方はどなたも大きな問題なく、海上保安庁が重大事故だったんですけど、やっぱり訓練は日頃からやっていたかないといざとなった時に、それを体で体験することがいっぱいやってないと多分、

頭の中で理解するだけでは役に立たないなという感じはしているところです。ぜひまたよろしくお願ひしたいと思ひます。